

〈追悼文〉 中本正智君の思い出

島袋, 伸三

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

18-19

(開始ページ / Start Page)

52

(終了ページ / End Page)

52

(発行年 / Year)

1995-02-24

中本正智君の思い出

島 袋 伸 三

1957年の9月頃から2カ年ほど、首里は御茶屋御殿跡にあった守礼の家学生寮（カトリック教会経営）で中本正智君と共に過した。その間、彼に誘われて始ったばかりの「おもしろい研究会」に1～2回参加したことがあった。彼の郷里の奥武島でも何度か遊んだ。

1959年の春休みの頃のことだったと思う。寮生数人で私の郷里の辺野古岳の登山を計画して出かけた。皆で公民館に1泊したが、当日の朝は生憎の雨で山登りを断念せざるを得なかった。公民館で何することなく逡巡していると、中本君は村の古老を紹介してくれという。私は親戚のおばあさんの家に彼を案内した。屋号（東松根）の島袋ナベさんであった。明治8年生まれのきれいなハジチをしたおばあさんであった。彼は方言で自己紹介をすると、おもむろに大学ノート、消しゴム、HB鉛筆を取り出しナベおばあさん相手に方言採集を始めた。35年ほど前のことだが、いつもは我々と飲んだり、寮周辺の草刈りをしたりはしゃいだりしている中本君の研究姿勢にいたく感じ入ったことを今でも新鮮な記憶として思い出される。中本正智君のご冥福を祈るばかりである。

（琉球大学教授）



中国福建省調査のため王連茂泉州市海交史博物館館長を迎えて、会議のあとの記念スナップ、左端中本先生。